

所属・氏名（ 看護学部 看護学科 氏名：三味祥子）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1（学術論文）	共著	令和6年3月	広島国際大学看護学ジャーナル， Vol.21， No.1， 3-15.	Dewey の教育理論を通して，看護大学1年生が思考した援助的関係について研究を行った。1年生は，援助的関係について患者－看護師の関係性というひとつのイメージで画一化しようとするのではなく，【多職種との協働】という患者以外との関係性や【看護師としての能力の向上】【関係構築のための自己の姿勢や行動】【自己を振り返り課題を見出す】といった自己の成長過程であると捉え，学生は個々の経験から援助的関係について，意味づけていけていたことが明らかとなった。 （岡本亜耶子；二井矢清香；鍵浦文子；三味祥子）
2（学術論文）	共著	令和3年11月	日本看護学教育学会誌， Vol.31， No.2， 57-68	援助関係をつくるコミュニケーションの授業にピアラーニングを導入し、看護学の初学者である1年生が援助関係をどのように意識し行動いくのか、ピアラーニングの思考過程を明らかにした。 （二井矢清香、鍵浦文子、杉野美和、岡本亜矢子、三味祥子）
3（学術論文）	共著	令和3年3月	広島国際大学看護学ジャーナル， Vol.18， No.1， 25-36.	学生同士のピアサポートという構図に着目し、先輩－後輩関係という異学年における協同学習において、2年生がピアサポーターとして1年生に教える経験を通して獲得した指導能力と体験により得られえた成果を明らかにした。 （三味祥子、岡本亜耶子、鍵浦文子、二井矢清香）
4（学術論文）	共著	平成28年3月	日本赤十字広島看護大学紀要， 16， 89－97.	基礎看護学実習前 OSCE が臨地実習において，学生の学びにどのような効果をもたらしたかを明らかにするために調査した。学生は、OSCE の実施により、【対象者理解のために疾患と症状を結びつけ学習する】ことを実習前の事前準備としての効果と感じ，【対象者を理解するための観察・情報収集ができるように取り組む】，【アセスメントから対象者のニーズを捉えた援助を実施する】などを効果とし捉えていた。実習前 OSCE は臨地実習に臨む学生の意識づけとなり，臨地実習で行動することの認識につながることを示唆された。（三味祥子，吉田美和，山本加奈子，川西美佐）

令和 7 年 5 月 16 日 現在